『愛こそ絶対実在』　中標津やすらぎの郷④　2019 4．4

愛こそ絶対実在

愛するは愛されるよりも美しく すべてを幸せにする。
この宇宙に愛こそ絶対実在。

皆さんに開き盲目というのは、愛ほかに何かがある、愛ほかに誰かがいるという錯覚で生きている人間を、開き盲目というんです。あるいは盲人というんです。
絶対という言葉は、愛として命として本質という絶対なるものに「絶対」を使ってほしい。

皆さんの思っているとおり。「私の病気、絶対に治らない」。「絶対」を使ってみてください。治るはずがない。
「私の悩み、苦しみ、絶対に超えられない」……超えられるはずがない。
昨日も説いたように、無いものに力を与えて振り回されているのはあなた方。
じゃあ、病気が絶対ならば、この世界に病人でない人間なんていないです。
私は一秒だって病んだことはないというんです。
なぜならば、病気は絶対なるものではないことを知っていたからなんです。

これは何年も研究で体験してきました。
心配は心配を引き寄せる。

完全意識は完全を引き寄せる。
あなた方の送信したとおり、受ける受信はもう完璧なんです。
心配という送信をしながら、完全を引き寄せた人間なんていないです。
完全意識、完全を送信しながら、その逆を引き寄せた人間なんていないです。

じゃあ、それはどのように私は体験してきたのか。
たとえば、小学校、中学校の子どもを預かっているお母さんたち。
たとえば１００名に聞きます。
子どもたちがいつもならば夕方5時に学校から帰ってきたとします。
しかし、6時になっても7時になっても8時になっても帰らない。
１００%お母さんたちは何を思うのか。
子どもは交通事故に遭いはしなかっただろうか。
どこかでケガをしてないだろうか。
あるいは誘拐ではないのか。
正しい思いよりは常に心配や不安や恐怖なんです。
その子どもたちは何にもないにもかかわらず、お母さんの心配や恐怖によってその状況をつくりあげられるんです。
１００%です。１００名のお母さん方に聞けば、1時間や2時間も3時間、4時間も遅れれば必ず悪い方向に思いをもっています。
良い状況が描かれるはずがない。
いつも言います。

私のお父さん、お母さんは、真理なんて学んだことはない。こういう話は。明想もしません。
しかし今振り返れば、お父さんの生き方がどんなに素晴らしかったことか。

もう学校をさぼっていますから夜に帰ります。
また、仕事に就いては夜の明けるまで残業で仕事をこなします。もう3つも4つも仕事をしますから。
お父さんとお母さんは全く逆のタイプなんです。
お母さんは心配性。もう私が帰るまでは、学校からでもいい、職場から仕事からでもいい、帰るまではもうしょっちゅう玄関を行き来するんです。心配で心配で。
おそらく私のバイブレーション、波動が弱かったならば、お母さんの想念によってどんなに私はその影響を受けていたことか。
すべてそれは波動なんです。

で、お父さんはどうだったのか。
たとえば、あなたが心配したことで一層その状況を悪くするだろうと。良い方向に変わることがあるのか。お父さんには生まれながらに心配という言葉がなかったんです。あなたが心配したからとてその状況は変わるのか、と。
「良い方向に状況に変えたければ常に良い思い」と言ったんです。
今のようにあなたのような心配や恐怖では、それを引き寄せて、その状況を最悪な方向につくりあげていくだろうと言ったんです。

真理そのものなんです。

で、Pさん。「私は波動を感じない、鈍感」というんです。
Pさんが、何を見ても愛しかみえない。
何を感じたって愛しか感じ得ないならば、これは鈍感ではなく敏感なんです。
愛のみえない者が鈍感なんです。
愛を感じ得ない者が鈍感なんです。
Pさんがどんな状況におかれていても、そこに愛を感じ、愛をみることができるならば、それは敏感なんです。

じゃあ、たとえばPさんが食事をレストランでもいい、自分で作ってでもいい、食事を作り食します。
「ああ、この食事は美味しい」。
それは、美味しいという波動を感じているから自分自身がそう捉えているんです。
その野菜や果物やその食物から美味しさの波動を感じているから「美味しい」で感じているんです。
もしそれが腐ったものを出されて「まずい」というなら、波動を感じているから、「まずい」を感じているんです。
一つ一つはすべて波動であることを知らねばなりません。
感じていながら皆さんは感じてないという錯覚をしていること。
24時間、皆さんは波動を感じているんです。

この宇宙は思いで埋め尽くされた世界

この宇宙は、この我々のようにこの肉体衣装をまとっている者の思い。肉体去った幽界の者の思い。あるいは霊体、あの光子体で生きている偉大なその聖人の方々の思い。さまざまな皆さんの目には見えない惑星に住んでいる方々の思い。もう一点の空間もなくその思いで埋め尽くされた世界なんです。宇宙は。

皆さん、それは、ルーシーという映画で観せられたではないでしょうか。皆さん自身が熟したときは、自由自在に、今、皆さんのアドバイスを必要としている者、あるいは肉体的な癒しを必要としている者、皆さんがここにいながらにして、地球の裏側のものを皆さん感じ取ることができるんです。

だから、その見えない波動の呼びかけ。幽界でもいい。あるいは肉体をもっている者の波動でもいい。あるいは光子体で生きている偉大な聖人の方々の波動でもいい。皆さんは自由自在にすべてを感じみること、捉えることができるんです。

その見えない波動の体験を私が書き尽くすならば、何百冊の本にも書き尽くせないでしょう。

たとえば、北京で私がヒーリングをしているとき、その全体意識のなかに入ったときに、ある女性から「助けてくれ」の波動を感じているです。

それを私が北京にいたのか上海にいたのか、そこを忘れていますけど、その女性は工事現場で働いていて上から大きなパネルが落ちてくるところを、この肉体という表現体は、ここでヒーリングをしながら、その女性を助けることもできるんです。それはまた命を助けられているんです。

このように皆さんは、想像を超えた能力が一瞬一瞬、顕現できる万物の霊長なんです。

それは皆さん自身が愛そのもので、常に自らを拡大していくことです。

愛を得ようとする者 愛を失い、愛を放つ者 愛を得る。
命を得ようとする者 命を失い、命を放つ者 命を得る。
持てる者さらに多く与えられ、持てぬ者は持ってるものさえも奪われる。

じゃあ、よくKさんも体験の話で言われます。Mさんも。
なぜなぜ一点の不足もなく、どんな個人セッションにも答えることができるのか。

常に常にその人の幸せを愛願い、すべての喜び、至福を願っているがゆえに、智慧の泉はこんこんと湧き出てくるんです。

皆さん、川の流れでも止めれば腐ります。井戸だって、あれは汲んで汲んで汲み上げるから新鮮な水がこんこんと下から湧き出てくるんです。

だから、兄弟姉妹のために智慧も力も愛も慈悲も惜しみなく出しいこうとするならば、いつでも必要なときに必要において必要なものがこんこんと湧き出てくるで

しょう。

我、神なり。

我、神なるがゆえに、無限の智慧、無限の力、無限の愛の泉・宝庫、わが内にあり。

本当にルーシーという映画で、私も2、3回は観ましたけど、まあ、やや我々が体験しているような状態で描かれています。

だから、ただむやみやたらに描いた映画ではないことを知ります。

自由自在に自分自身の捉えたいその思いを引き寄せて、自分自身で感じ取っていたではないでしょうか。

だから良きも悪きも、まずは皆さん自身がネガティブな思いをもっているならば、おのずと皆さん自身が引き寄せるのはネガティブです。

心配は心配を引き寄せる。恐怖は恐怖を引き寄せる。

で、うらみ、怒り、嫉妬はまたそのとおり。

だから、憑依も、全く関係のない波動を引き寄せる、くっつき合うことでは絶対ないんです。

怒り狂う人間に怒りの憑依なんです。

嫉妬の強い人間に嫉妬の憑依なんです。

何百人でも体験してきています。

私は言うんです。「なぜこの者の肉体を支配しようとするのか」と。「この者の肉体はこの者が顕現するための肉体、表現体であって、あなた自身が使う道具ではない

ことを知りなさい」と。「この者から出ていけ」と言うんです。

どの憑依も「私が勝手にこの者にくっついたんではない」と言うんです。「この者に呼ばれた」と言うんです。

もちろんこの者が「私にくっつきなさい」と呼んでいるのではないでしょう。

何で？

思いです。想念・意識なんです。

だから、うらみにはうらみの憑依。怒りには怒りの憑依。嫉妬には嫉妬の憑依。

波動という波動で引き寄せられたんです。

まさか皆さん、私に嫉妬の憑依がくっついてほしい、私に怒りの憑依がくっついてほしい、私にうらみの憑依がくっついてほしいと、そう思う人はいないでしょう。

思い 即「波動」なんです。

「波動」そのものが、そのものを引き寄せている、ということを知らねばなりません。

言葉、表現、見るもの、聞くもの、すべて先に立つのはすべて「思い」なんです。

皆さんに「思い」がなければ、見ることも聞くことも語ることもできないんです。

「思い」そのものによって、皆さんは見方、あるいは語り方、聞き方、表現が決まっていくんです。

見るも、語るも、聞くも、表現も、すべてのすべての前におかれているのは「思い」なんです。

40年も体験してきたように、男性からはそう体験ないです。ほとんど女性ですよ。女性の方から。

「私は、思いは美しいけど、思いはきれいだけど、言葉が悪いんです」と言うんです。

思いの良い者に悪い言葉が出るでしょうか。

思いの正しい者に、悪い見方が、悪い言葉遣いが、悪い表現がありうるはずがないんです。

それは、心に一点でもそのゆがみ、ひずみ、その汚れ、くもりが潜んでいるがゆえに、その見方が、その言葉が、そのような表現があらわれていることを知ってほしい。

美しい心の思いはすべて美しいです。

美しい心の見方はすべて美しいです。

くもりなき心に美しい姿。

すべては美しき天使たち。無限に飛び立つ美しき天使たち。

思いに逆らって、見るも、聞くも、語るも、表現なんてありうると思いましょうか。

心は美しいけど、言葉が悪いんです。

心が悪いから言葉が悪いんです。

心が悪いから悪い見方しかできないんです。

心が悪いから悪い表現しかできないんです。

美しい心に醜い思いや言葉や表現がでるとするならば、もう法則は完全に狂っていますよ。

くもりなき心には美しい姿が映るんです。
すべては美しい。
すべては素晴らしい。
これしか映らないんです。

絶対とは、無限にして完全意識のみが絶対なんです。
だからこの現象という世界で、さんざん今、世の中で体験させられているではないでしょうか。
絶対というものがどんどん正しい方向に、あるいは悪い方向にあらわれることを見せつけられているではないでしょうか。
絶対という言葉は一つしかないんです。
絶対 愛です。
絶対 神です。
絶対 完全です。
その一元なるものが絶対なるものなんです。
二元なるものに絶対はないんです。

皆さんが永遠と見てきたものに絶対なるものがあったでしょうか。
常に常に変化しています。
常に常にカタチを変えています。
だから、絶対でないものには「無常」というんです。

この世は心の映し鏡

絶対でないものには、影・幻・幻影というんです。
思いは、良きも悪きも必ずやこのカタチの世界に具現化するということを知ってもらいたい。
あの人を殺したい。
その思いが刀(かたな)を作り、で、銃を作ったではないでしょうか。
あの国と戦いたい。
それに戦車、戦闘機、戦艦という戦う武器を作り上げたではないでしょうか。

だから、皆さんの見ているこの現象の世界、この世は皆さんの心の映し鏡なんです。

我々は地球という鏡に何を映し見ているのか。
心の醜さですよ。
だからこそ、戦争で戦い、殺し合い、テロという行為も、さまざまな天変地異・天候異変は、本来あるべき姿ではないんです。
あるべき姿は、完全な映しなんです。
心の醜い者の描くものは醜いです。
心の美しい者の描くものはすべて美しいです。

それは皆さん自身が、絵にしても映画を作るにしても、皆さんこの現象の世界でさんざん見せつけられてきたではないでしょうか。さんざん体験してきたではないでしょうか。

美しい心は美しさを映し見ます。
すべては美しい。
すべては素晴らしい。
そのように顕現できる者を、「美容師」であり「霊能者」というんです。
心清き者よ、幸いなり。
その者が行くところ行く場所で、もうすべてですよ、すべて。
ここで愛が語られているときは、ここに肉体をもっているあなた方だけに影響しているんではないですよ。
これは、愛そのものの境地から語る愛は、もちろん、ただ本を読んで「愛です」で、宗教、さまざまな本や書物を読んだり聞いたり、で、ただオウム返しで「愛です」とは違いますよ。
愛そのものが愛を語るときは、すべてのすべてにその影響を与えていることを知らねばなりません。

これは何回も体験します。
地球の裏側で学ぶ友がいるとして、ちょうど時間は何十時間もずれています。南米のあの地球の裏側に住んでいる方々ならば、今の我々のこの時間と向こうの時間と

は差はあります。
しかし、今の時間で今、語られている光話を完璧に聞き取っている者がいるんです。
それを皆さん自身が見せつけられたときに、それをはっきり自覚したときに、思いには、で、言葉から口から語られるその言葉の波動というものは、思いの波動というのは、時間も空間も壁も距離もすべてを超越していることを知るんです。

よくクラインガルテンで学んでいたパラグアイの人でした。
私がちょうど一番大事にしていたウマを残してきたように、その人はイヌのシェパード、よく警察犬に使われているシェパード、もう非常に大事にしていたイヌを置いてこなければならない状況におかれて山梨に来ていたんです。
持ち主から離れた心配だったのか、そのイヌが病気になり、もう死にそうになっているというんです。
で、そのイヌをどうしてもどうしても生かしてあげたい、まだ死ぬべきではない。ただ自分の対処が悪くて、急に離れたことにおいて心配で病気にさせたことを申しわけなく思うと言うんです。
むやみやたらにその能力を使ってはいけないけれど、その者にそのことを体験させたんです。
「そのイヌよ、完全でありなさい」という一言で完璧に癒えているんです。南米の裏側です。
この地球の裏側の南米のパラグアイのほうです。
我々の想念・意識というのは、時間や空間や壁・距離、すべてのすべてを超えてい

るということを知ってもらいたい。
じゃあ、あなた方が、その能力があなた方の内にあることを知るならば、皆さんの使っている携帯や無線やあるいは家に置かれている電話なるものは、なんてお金もかかるし時間もかかることかと皆さん知りますよ。

もう思った瞬間、その思いは波長の合う者はもう読み取っているんです。即、もう受け止めているんです。
宇宙にあなた方の想念・意識よりも早いものなんてないです。
それそのものが「光」というんです。
人間がカタチ作った光なんて、で、地球の裏側、南米に届くまでに時間がかかります。
しかし真実の光とは、皆さんの思い・想念・波動なんです。
ここで思った瞬間、コンマ何秒ではもう向こうでは受け止めています。
あなた方の内には、それだけの能力がもう埋もれて、皆さん自身がいつ使い生かしてくれるんだろうと待っているんです。
で、それを引き出す方法はただ一つしかないんです。
機械や道具や物やこの世の飲食で磨けないように、あなた方の絶対愛で以外にはこれを引き出すことはできないんです。引き出せないんです。
だからこそ、無駄な浪費する時間があるならば、1分でも1秒でも常に内側へ己の意識を融合させなさい、というのはその意味なんです。
それは神です。
それは愛です。

それは無限意識・普遍意識・宇宙意識、すべての本質である命そのものというんです。
我、命なり。
我、真理なり。
我、本質なり。
その思いがどんなに皆さんに力となっていくか。
どれほど皆さんの波動を高めゆくことか。

もう何日も前から私は食事をしてないです。
バイブレーションを高めたときには、逆にこの世の食物を口に投げ込むと…まあ、それは自在にコントロールはするでしょうけど、全くそれは不要なんです。
愛そのものは、すべてのすべてを満たしてくれる、もう絶対なる本質なんです。
何日も炭酸水やお茶以外には全く胃にも入れないけど、一点のひもじさも感じないんです。
もちろん、（２０１９年のインドセミナーを主催される）ＳさんとＫさんとあのインドのセミナーのミーティングで、私は食事の場に参加します。
しかし、どんな食事を見せられても、どんな食事がここに置かれていても、一口だって「食べよう」「食べたい」という思いは絶対ないんです。
だから皆さんはその制御さえも失って…もちろん皆さんに「食事をするな」とは言いません。

この肉の思いにまかせて、朝に昼に晩に、もうどんどん食事を投げ込めば、いつい

つ皆さんは完成に至りましょうか。
肉体はあなた方の強い意志で、で、制御というものを必要とするということを知らねばなりません。
朝にきて朝食。昼にきて昼食。晩にきて夜の食事。そのような肉にまかせてどうしてどうして悟りなんてありましょうか。
逆に逆に食事を投げ込むことがなければ、自分自身の鮮明さを感じてくるんです。
輝いていく自分。智慧に満たされていく自分。
だから皆さん自身が肉体そのものに妨げられて、皆さんは能力を閉ざしていくんです。
皆さんに「食事をするな」とは言いません。
食べ過ぎだと思うんです。
自在に我々は、この肉体衣装なんて自在に制御することができるということを知らねばなりません。
1週間や2週間、3週間、一層この身体は健康になっていくでしょう。
一層、神とのつながりで、メッセージやインスピレーションが受信しやすくなっていくでしょう。
いつ制御しましょうか。
いつこの肉体をコントロールしましょうか。

「今生にやりたいのか」「来生にやりたいのか」

だからあなた方に、まあ今日からは明想は大切なこと、絶対、明想は必要。
で、ここで話を聞けば心はその気になります。
さあ、今日からは明想を絶対欠かしてはいけない。
しかし家に帰れば、今日はちょっと疲れたから明日から。今日は働いて疲れたから明日から。
心はその気になっても肉体は弱い。我々は食する時間も惜しんで、寝る時間も惜しんで「神よ、神よ、神よ」において、神は皆さん自身を支配するということを知らねばなりません。
弱い状態でどうしてどうして、いつ本質の世界に到達することができましょうか。
もちろん、本質への到達を「今生にやりたいのか」「来生にやりたいのか」、これは私は皆さんを支配する権利なんて、皆さんにそう言う権利はありません。
「今生やりたいのか」「来生やりたいのか」「来来生やりたいのか」、それは皆さんの自由意志です。

しかし、今生この肉体という衣装を着せられて、その約束を私は今生、全(まっと)うしているだけにしかすぎません。
だから褒められようが関係ない。
けなされようが関係ない。

ただ今生の根源との約束を、この肉をとおして根源との約束といっても私の内に内在する真我ですよ。外なるものではないですよ。
わが内なる真我という根源とのこの肉体の約束を果たそうとしているだけ。
だから、あなた方が「今生悟りに至るか」「来生至りたいのか」「来来生に至りたいのか」、皆さんの自由意志。
この肉体という表現体に与えられた役割をしっかり顕現させれば、私はこれでもう完成なんです。そのものなんです。

多くの中国の方々が素晴らしい意識状態まで高まりました。
本来は、これでさえ私はもういつでもいつでも肉体を脱ぎ捨てても、もう私は不足はないんです。
もうそれで私は完璧な約束は果たされているんです。
しかし、ただただ美しい方向に心を変え、ただ美しい道へ導くだけではなく、私は欲張りであり、ゆえにできるかぎり実相までは案内したいという思いで耐えて耐えて耐え抜いてこの肉体をここにおいているんです。

このセミナーに出会って中国の方々がどんなに美しく輝いたことか。
想像もできないほどに素晴らしい変生をしているんです。
だから、皆さんとレストランに行こうがホテルに行こうが、どこの会場でも私は自慢できるんです。
今まで我々がテレビやニュースで見た中国の方々とは全然違うと言われているんで

す。
なんてあなた方のグループの中国の方々は、我々がニュースで見た方々とは全然違うのかと言うんです。
すべてが美しい、と言われているんです。
表現が美しい。
その表現は、すべてのすべてのあらわれなんです。

しかしもう一歩、皆さんに私はやってもらいたいんです。
我、本質なり。
幾転生という人生の過程で皆さん自身がつながれてきたこの輪廻という鎖を断ち切るまで、皆さんは完成に至ってもらいたいと、私の欲望、思いなんです。

何万年の転生させられた法則、今ここに解けたり。
幾転生という人生の過程をとおして背負ってきた、業・罪・カルマなる実在しないものをすべて焼き尽くしてほしい。
愛こそ絶対実在。
愛こそがすべてのすべてあってあるものの本質であることを実感してほしいといいます。

実感とは、実際に愛として生きていることです。
実感とは、本質として生きていることです。

じゃあ、皆さん、本質そのものとして生きているか、愛そのものとして生きているか、もう一見、みればわかるではないでしょうか。
皆さん、ニセモノの教師を見てあるいは教祖を見て、「ああ目覚めた人だ」ってそう言いましょうか。
根源に至るまでは、我々は理性を徹底して働かせねばなりません。

我、息にあらず

あのヨガナンダを導いたスリ・ユクテスワは、常に常にヨガナンダに「理性を開きなさい。理性を開きなさい。理性を…」と説いたんです。
で、私はその理性を超えた状態でみたがゆえに、なぜそう説くのだろう？　と思ったんです。
まず本質の世界に至るためは、途中まで我々は理性というもので徹底して識別をしていきます。
しかし、融合してしまえばすべては消えるんです。
だからこそ「我、肉体にあらず」「我、心にあらず」「我、感情・五感・理性にあらず」でくるんです。
本質そのものが、完全意識が「心・感情・五感・理性」、それをとおしていいというならば、これは悟りではないんです。そのものではないんです。
その意味をはっきり知ってもらいたい。

じゃあ、その理性を超えて次は何がくるか。
「我、息にあらず」とくるんです。
息そのものも、この肉体という道具をここに留めおくためのことであって、その根源そのものを我としての境地に至ったときは、息でもないことを知るんです。
「我、肉体にあらず」「我、心にあらず」「我、感情・五感・理性にあらず」「我 息にあらず」がくるんです。
だから、スリ・ユクテスワはヨガナンダに「あなたが息もせずにこの肉体を留めおくようになったとき、この世の義務はもうすべて終わっているだろう」と言うんです。
「しかし、あなた方がタダで息を吸わされているかぎりは、尽くす義務がある」と言うんです。
そのときこそがストレートで本当のオーバーシャドウ、本当のその境地に至っていくでしょう。
しかし今「息にあらず」と説いたら、混乱に、あるいはその学びのなかをパニックにさせるがゆえに私は「我、理性にあらず」で止めているんです。

たとえば皆さんが夜、睡眠をとったとき、胃に食事を入れないから休んでいます。
すべての臓器は休んでいます。
心臓が休んだら皆さんは死。
しかしこれは完全に休んでいるのではないです。
心臓そのものも完全なる大愛に包まれたときに本当の休息があるんです。この肉体

の。
だから、私の心臓を子どもたちが絶対に探せなかったんです。
いつも明想したとき私は暑いですから、絶対に上にシャツやそれを着て明想したことはありません。もう生まれながらに夜は常に上は裸でした。で、明想も真冬だって裸です。
で、子どもたちが小さい時にいたずらで私に飛び込んできます。私の胸元に。
私の心臓がどこにも動いていないんです。絶対動かないんです。
で、子どもたちは「お父さん、心臓なし」という言葉を使ったんです。絶対に探せないんです。完璧に休息しています。
だからこそ、身体はいつでもベスト調子。調子が悪かったことはないんです。
そこに至ったときこの身体を本当の休みのなかに入れているんです。
もう光そのものです。
こういう現象が起こるんです。
だからその境地にある者は、もう皆さん自身が見ればはっきりわかります。
皆さんとともに楽しくということがないかぎりは、食事なんて必要としません。欲しいとも思いません。何週間、何か月抜いたって。で、睡眠なんて必要としません。睡眠以上に、この食物を口に投げ込んで取るエネルギー、栄養よりも、想像すらできないほどのものを、すべてすべてそこにもう引き寄せているんです。
何を必要としましょうか。
だから、よく飛行機の中で明想中に私が頭(こうべ)を垂れているときは、誰が見たって寝ている姿です。

しかし、もうすでに幽界やいろんなところで仕事をこなしているんです。
無限意識・普遍意識・宇宙意識は、皆さんの本質・実体なんです。
この肉体という現象我に支配された、いと小さき、弱き無能・無力の意識ではないんです。

無力の我から力ある我へ。
無智の我から智慧ある我へ。
迷いの我から悟りある我へ。
この肉体という結果に支配された我を解き放つ時にあることを知ってもらいたい。

よく、欲望は満たさねばならぬとか、執着は満たさねばならぬと教え説く者もいましょうけど、なぜ意志と勇気と努力と忍耐を我々に神は授けたのか。
すべてのすべてを乗り越えるためなんです。
だからたとえば、私ならばこうだったんです。
真栄田岬（まえだ）で明想しているときは「今日はもう疲れたからこの程度でいいだろう」「もう今日はこの程度の明想で」と、皆さんは言います。
たとえば「本質の体験ができぬならば、私はこの肉体を朽ち果てようとも」という思いで、私は常に常にその真栄田岬で座り込んできたんです。
もし今日、本質との合一ができぬならば、この肉体もう朽ち果ててもいい。そういう思いで。だから、命をかけてきたというんです。
ただ、どうでもいいで本質の世界へ融合できた人間なんて世界に一人もいないんで

す。
それぞれに命をかけた努力をしてきているんです。
「もし、今の明想で自分自身にその神が感じられるまでできぬというならば、この肉体はもう朽ち果ててもいい」という思いでやってきたんです。
ただ、どうでもいい、という思いで皆さんの前に立てている者ではないんです。
心を尽くし、思いを尽くし、精神を尽くし、魂を尽くして、わが内なる本質を愛せよ、なんです。
神よ、神よ、神よ。

２０２０インドセミナー

我々が今、昨日のミーティングの段階で、（インドセミナー主催者の）Ｓさんは約３００人で、一応は止めたい（締め切りたい）というんです。
もしホテルが確保できるならば、また４００名、５００名といきましょう、というんです。
じゃあ、４００名、５００名となると、向こうの…　まあ、私は今、建設している、ああ、もう仕上がっていたんです。仕上がってペンキ塗りしていたんです。その会場は。その会場は３００名と聞いたけど、私の聞き違いだったのか、Ｓさんは２００名しか入らぬというんです。

もし、２００名入りに、４００名の学びの友が参加するとするならば、じゃあ、午前の部２００名、午後の部で２００名でやっていこうか？　というんです。で、私は体験者です。

そういう状態で、分散された状態で私はセミナーをしたくない。

４００名いれば４００名で、５００名いれば５００名がまとまってやってほしい。

じゃあ、もう２００名のところに５００名なんてもう不可能です。カタチの上では、物理的にも。

インドを愛で染めたい

じゃあ、どうするのか。

野外でそこに使える場所があるならば……これはまずセットしてくれている（現地スタッフの）Ｍさんにそこを探してもらって、で、探したならば、ＳさんとＫさんと確認しに行くつもりです。

そこでもうインドの天地を揺さぶるほどの光話をしたいんです。

なぜなら、８年前に幽界なる者から「なぜ霊的宝庫といわれたインドにわざわざ日本人のお前がきて光話をするのか…」で、妨げようとしたんです。

しかし、私には敵はいません。

私を妨げることができなかったんです。で、（当時のスタッフの）Ｙさんをさんざん妨げたんです。

じゃあ、そういう方々に……その方々は霊的宝庫・インドといわれた国を、もう日本人、中国人、差別心があってそういう思いだったんです。
だから、あえてその天地を揺さぶるほどのバイブレーションをそのインドで高めて、中国人、日本人、あるいはインド人という全く差別のない、区切りのない、分離のない、それそのものを幽界なる者たちにも示していきたいと思うんです。
だから、できるかぎり４００名の参加ならば５００名の参加ならば、それそのものがまとまった状態で、その高き波動で、天地を揺さぶるほどの愛の波動で、インドというその国を愛で染めたいという思いをもっているんです。

だから、私が何を見つめているのか、何を思い、何を為そうとしているのか……それを知った者がこの現象の世界には、肉体をもった者にいるのか、と何十年も何十年も説いてきた意味はそれなんです。
想像すらできないことを常に、意識、意識、意識のなかに描いているんです。常にそこを意識しているんです。
あえて霊的宝庫・インドで、多くの聖人を生み出したインドというその国で、あえて日本人というその差別を…幽界なる者からですよ。私はホテルのオーナーからは非常に喜ばれているんです。

幽界なる者がそういう思いをもってして、次の輪廻もまた分離感でしか来ないんです。
だから、そのような分離・差別のその思いを打ち砕いてあげたいんです。

それは、その分離というその区切りをはずしてほしいという意味です。
人間意識・肉体意識・個人意識という偽我という分離感を、皆さんの放つ愛の波動でインドというあの大国を響かせてほしい。
愛の響き、愛の伝導体として、無限光そのインドの国を輝かせてほしい。
だから、昨日もKさん、Sさんは「インドのセミナーを完全に成功で導いていきたい」と言ったんです。「成功に導いていきたい」と言ったんです。
限定されてこの日本の人間が、そこまで考えた者がいたでしょうか。そこまでやれた者がいたでしょうか。
４００名、５００名も日本・中国から導いて、わざわざ霊的宝庫・インドにセミナーをしにいった者がいるでしょうか。
もう我々は人種差別、宗教・宗派の対立、国と国との離別、もうすべての観念・概念を脱ぎ捨てねばならぬ時にきているんです。
もうここに命をかける時にきているんです。
自分さえよければいいでは、もうついて来れる者はいません。

すべての壁・障壁を取り除いてこそ、我はすべてあり、すべて我なり。
我は全体であり、全体 我なり。
一命一体・自他一体・全一体の境地でないかぎり、これからの学びにはついて来れる者はいません。
なぜ？
光という本質から分離して利己主義と、どうして波長が合いましょうか。

しっかりと一命一体・自他一体・全一体という本質を捉え、顕現できるあなた方でいてほしい。
本質から分離した個人なんて一人もいません。
本質は一にして多身なんです。
ひとりひとりが、顔・カタチ・名前の違った私であって、私でない者が一物だってこの宇宙に存在していることではないんです。
だから、幽界なるものからのどんな妨げも、抵抗もしなければ、憎いもない。
愛そのものであるかぎり、どんな妨げも受けぬこと。
人間意識・肉体意識・個人意識ではありません。
この血や肉・姿・カタチが私、あなた方ではありません。
すべての本質は命なり。
すべての本質は愛なり。
すべての本質は、無限にして完全意識であること。
完全意識であるあなた方が、どうして実在しないものに混乱させられることがあるでしょうか。
その混乱は、貧しき心ゆえに自らが引き寄せていることを知らねばなりません。

心貧しき者よ、わざわいなり。
そのようなものを引き寄せてもがき苦しんでいるのは、己自身の責任なんです。誰の責任でもないんです。
心清き者よ、幸いなり。

その者は、行くところ行く場所で、すべてのすべてに幸いをもたらすであろう。
心貧しき者よ、わざわいなり。
その者は、行くところ行く場所で、すべてにわざわいをもたらす。
で、自らまたそのような波動に引きつけられて混乱を起こすだろう。

美しい心の持ち主になってもらいたい。
無限光 輝いた本質そのものであるあなた方であってほしい。

愛するは愛されるよりも美しく すべてを幸せにする。

「愛をください」「愛してほしい」「愛が欲しい」ではないあなた方であってほしい。

愛を得ようとする者 愛を失い、愛を放つ者 愛を得る。
命を得ようとする者 命を失い、命を放つ者 命を得る。
持てる者さらに多く与えられ、持てぬ者は持っているものさえも奪われる。

また「命を捨てろ」というならば、「自殺するのか」という人間もいるんです。
命を殺すということなのか、という人間もいるんです。
命とは愛です。命とは慈悲です。命とは智慧です。
それを「兄弟姉妹の幸せのためには、兄弟姉妹の平和のためには、惜しみなく与えろ」という意味が「命を捨てよ」なんです。

愛を得ようとする者 愛を失い、愛を放つ者 愛を得る。
命を得ようとする者 命を失い、命を放つ者 命を得る。
持てる者さらに多く与えられ、持てぬ者は持っているものさえも奪われる。

だからKさんが、智慧の泉から汲みだすのがもう喜びで楽しみで、24時間、個人セッションをしていたいというんです。だからMさんも忙しいなか、残業でも沖縄でもまた個人セッション。兄弟姉妹のために尽くしてくれるんです。
もし自分の身体が疲れる、嫌。絶対にしません。
すべての幸せを願い、すべての喜びを願い、すべての平和を願い。
だから平和なんて、ひとりひとりの心が平和であるならば、今、この現象の世界は、即平和です。

KさんもMさんもいつも体験の話で言われます。
Kさんの心もMさんの心も、今の今「今、平和です」と言うんです。
平和はどこに？
わが内にあり、なんです。
わが内にある平和が、この現象という結果の世界に顕現されていくんです。

それが、内なるものは外なるものとなり、外なるものは内なるものとなる。
内・外一体というのは、真（神）我一体の境地なんです。

根源との一体感なんです。
惜しみなく愛を。

愛で以外にはチャクラは開かない

チャクラを開かそうのセミナーを、1千万円でチャクラを開かすセミナーを私は見てきました。
教え説いている者もチャクラを知らない。開いてもいない。
教えられている者もチャクラを知らない。また1千万円を出して開いた者はいない。
借金を背負っているだけ。
チャクラは、あなた方が愛 尽くし生きることにおいて、おのずと開いていくことであって、どうもがいたって虚しい方法でチャクラが開けるならば、みんな悟りますよ。
チャクラの開きは、愛で以外にはチャクラは開きません。
それが、薬物や機械や道具や物質でチャクラが開けるならば、悟りは金・物で買えるということなんです。
チャクラの開きは「絶対愛」なんです。「絶対慈悲」なんです。
すべての幸せを思い、願い、愛生きることにおいて、慈悲生きることにおいて、すべてのチャクラは完成におかれること。

今日も愛で目覚め、愛でことを為し、愛で今日の一日を終えていけるひとりひとりでありますように。

はじめから無限の愛です。
今も無限の愛です。
未来永劫に無限の愛です。
それはすべての原因としての本質なんです。
今から皆さんは愛になろうでもないんです。
今から本質になろうでもないんです。
はじめからあるもの、今もあるもの、未来永劫にあるこの本質こそが、あなた方の実体なんです。あなた方の本質なんです。

ただ、表現体としての肉体を「私、私、私」で錯覚で、我々は生きてきたことほかにありません。
今生こそ錯覚から覚め、まずひとりひとりが泳げるあなた方となり、溺れて苦しみ生きる兄弟姉妹に愛の手を差し伸べ、光の道を示しいけるように、我々はともに成長していきたいと思います。

中標津やすらぎの郷で皆さんとともに学べたことを心から嬉しく思います。

ありがとうございました。